

# ヨコハマ人・まち

まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課 TEL045-671-2696 FAX045-663-8641  
Email：tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

## 【ヨコハマ人・まち 目次】

- 「おっぱま協働のまちづくり」を事例に地域まちづくりを考える
- 地域まちづくりの横浜エンジンとなるか～「まちづくり人！大集合！」報告
- よこはまのまちづくり活動情報（募集案内）

地域まちづくり  
を  
考える

まちづくり  
を  
事例に

「おっぱま協働の



## 追浜ってどんな地区？

1

神奈川県横須賀市追浜は横浜市に隣接し、日産自動車や住友重機、海洋研究開発機構などの工場や研究機関が立地し、かつては賑わいをみせた工業地区でした。京急追浜駅前商店街も、メインストリートとして栄えていました。しかし、近年では経営者の高齢化、後継者不足、消費者の流出などにより衰退が懸念されていました。

これまでも、地域の子もたちがペットボトルや空き缶などで作ったクリスマスツリーの装飾、フリーマーケット、大道芸、ごみ分別ゲームなどの多彩な「まちおこし」イベントを繰り広げてきました。今回は「追浜商盛会」が関東学院大学社会環境システム学科昌子研究室（昌子住江教授）に街づくりへの参加協力を要請し、「一緒にまちづくりを考えよう」と商店街を地域社会の顔として再構築する取り組みが進んでいます。商店街を地域社会の顔として再構築する取り組みがワインで地域の活性化を図るという大学生の提案を参考に、商店街の空き店舗を借り上げて、「追浜こみゅに亭&ワイナリー」（ワイナリーという独自の資金源を持ったまちなか研究室）…<地元と大学の研究室が一緒に使える場所にワイナリーが敷設されているもの>…を稼働させています。

## 地元商店主によるまちおこし ～「追浜こみゅに亭&ワイナリー」

2

地元商店主の有志を中心に組織された「追浜商盛会」は

## (1) まちなか研究室として ～生涯学習のメニュー提供～

「追浜こみゆに亭&ワイナリー」は、地域に還元される活動の促進として、地元学をはじめ、ワインやジャム、味噌、ステンドグラス、おっぱま寄席などの様々な研究会や、観光ボランティアガイドなどの育成講座、まちづくり起業ゼミやまちづくり担い手講座などを開設しています。学生だけに限らず、定年後のサラリーマンの知恵を生かす場所として、そして、そこに住む人が楽しんでまちをつくれる場としても注目されています。

ワインの収益はもっぱら空き店舗の賃貸料に使われています。活動費用は、主に参加者の会費によって賄われ、その他に一口1万円のサポーターを募り、ワイナリーの設備費（醸造設備の費用）に充てています。また、サポーターは、まちなか研究室の活動等を割引料金で利用できる仕組みになっています。地域のPRに一役買っている「横須賀おっぱまワイン」はオーストラリア産の濃縮果汁を原料に三浦半島で採取される海洋深層水を使って希釈し、醸造、販売しています。現在のところワインの予約は受け付けておらず、来店販売のみという人気の高い商品です。顔の見える対面販売のため、安心してワインを提供でき、話ができる交流拠点としても好評です。ワイン研究会では自分たちの勉強にと生産から販売までの一連の研修を行い、技術の向上を強化しています。ワイン需要の増加を見込んで2号店も開店されました。

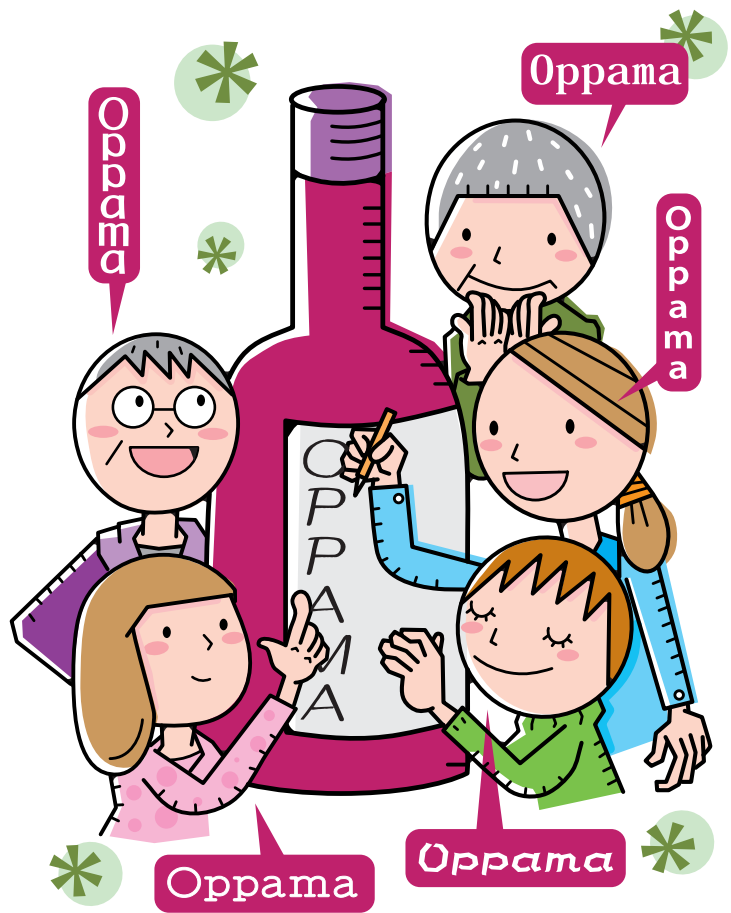
今では成功の秘訣を探ろうと県内外の関係者の視察も増えてきています。

## (2) 顔の見えるイベントを実践

商店街では、ワイナリー開設だけでなく、商店街の活性化と住民のふれあいの場となるイベントも開催しています。付近には関東学院大学や横浜市立大学があり、そのため一人暮らしの学生が大勢住んでいます。学生も毎年参加している「追浜ナイトバザール」は地元の企業や団体が活動のアピールも兼ねて多数出店する歳末恒例のイベントです。関東学院大学の昌子住江教授は「学生にとっても実際に現場を見て回って、議論を交わしながらアイデアを実現することはいい経験となる。」と話しています。

## (3) 追浜のまちづくりの可能性と課題

追浜商盛会理事長の福島仁さんは「ものを売るだけが商店のすることではない。みんなが気軽に立ち寄り、ゆったりと過ごせる場の提供も商店街の役割です。後継者につないでいけるよう私たちの世代が基盤を作ることが大切です。」。



「大学の先生も行政の方も真剣で、私たちと一緒にこのプロジェクトに取り組もうとしているんだな、ということがわかってきました。」とおっしゃいます。これは地域と大学との連携が上手くいったため成功した例と言えるでしょう。

ワイナリー開設に先だっては、大学の研究室と一緒にあって、国道16号の電線地中化と舗装復旧に関連して、歩道の整備を考えるということで、歩行者、商店主、ならびに周辺住民を対象にアンケートを行いました。アンケート結果を受けて、行政、住民、商店主、学生でワークショップを行い、歩道整備に関する要望書を、国土交通省横浜国道事務所に提出しました。現在その要望を受けて、歩道整備を行おうとするなど、地域活性化や商店街振興策の検討を進めてきました。

他方で、追浜のまちづくりの目標がまだ明らかではなく、そのため、成果が見えにくいことや、まちづくりへの理解や認識に個々のズレがあることなどは、今後の課題として挙げられます。

新たな事業計画として2004年から3年間で、1000本の杏の苗木を臨海工業地帯にある貝山緑地に植樹しました。この杏の実を用いた羊羹や杏ケーキの商品化も計画しています。

商店街も大学も、ニーズに対応して常に生まれ変わり始めています。積極的に互いの持つものを活用することによる波及効果は多方面に広がります。

★この記事は、横浜市人材開発課による市職員の技術研修（平成19年1月26日）として実施されたものを元に編集しています。

# 地域まちづくり の横浜エンジン となるか

～「まちづくり人！大集合！」

報告



3月16日（金）夜、地域まちづくり団体が参加する「まちづくり人！大集合！」が、NPO法人 横浜プランナーズネットワーク主催で開催されました。この集まりは、各団体が今どんなことに関心があるのか、どのような形で交流を継続的に深められるか、具体的に意見やアイデアを出し合ってもらおうと企画され、実施されたものです。

一口に地域まちづくりと言っても、活動内容は住環境保全、商店街活性化、緑化、防災・防犯、福祉、地域交通、文化・芸術など、多種多様です。また、活動経験の浅い団体からベテランの団体まで総勢90人程が集まりました。活動のフィールドやテーマは異なりますが、自分たちのまちやまちづくりにかける情熱は熱いものがあると感じました。それぞれが活動の特徴や知恵・秘訣などを交換し合いながら、相互理解を深めることができ、当初のねらいは達成されたようです。



## 各団体からの関心ごとや 交流企画について意見交換

第1部では、まず、事前のアンケートで回答された関心項目について、際立った意見などを参加者から紹介してもらいながら意見交換しました。「まちづくりのアイデアが欲しい」「仲間を増やしたい」「同じような活動グループでネットワークをつくりたい」などの意見が多く共感を得たようです。

次に、「次回以降、交流企画会議はどのように展開していけばよいか」のテーマの意見交換では、会場内

から、「自慢話でなく苦労話を交換したい」「現地見学ツアー」「成功の極意を聴く機会」「似たグループの集まりにして」など、今後に取り入れて欲しい具体的な意見がたくさん出されました。



## 協働による地域まちづくりに期待！

第2部では、懇親会が催され、軽食をとりながらグループ間の交流がさらに楽しめたようです。まちづくりには地域住民の理解が不可欠です。活動を行うために様々な組織と連携するには課題も多く、お互いのまちづくりのプランをどのように構築すべきかをじっくりお話しするいい機会になったと参加者はおっしゃっていました。

横浜においても、様々な市民活動団体と市が連携して進める事業が増えています。

NPOに対しても情報や資金提供などの単純な支援から、行政とNPOとの協働（パートナーシップ、コラボレーション）を志向した事業へシフトする傾向が顕著になっています。

このような交流の場は、初めての試みであり、お互いに慣れていないせいもあってか、今回は戸惑いながらの交流という面もありましたが、共通の悩みを抱える者同士ということで、論点が絞られてくると自然と活発な意見が飛び交うのではないのでしょうか。協働の取り組みを模索する動きが活発になりつつある今、地域まちづくりをすすめる市民活動団体同士の今後の連携に期待したいと思います。

# よこはまのまちづくり活動情報 (募集案内)

## 2007年みなとみらいクリーン大作戦

市民・企業が一緒に協力してのまちづくり活動として、クリーン大作戦を今年も行ないます。

今年は花火大会翌日の清掃活動だけでなく、当日の分別ナビゲート活動も行い、ゴミを分別し、環境にやさしいまちづくりを目指します。

- 日時：① 2007年8月1日(水) 12:00~17:00 (花火大会当日)  
② 2007年8月2日(木) AM8:00~10:00 (花火大会翌日)

\*作業開始時間は参加者の集合時間により変更することがございます。

(雨天時、花火大会順延の場合は①は2日に、②は3日に実施します。当日雨天決行。花火大会中止時は中止になります。)

- 場所：①②共通 臨港パーク

\*みなとみらい線「みなとみらい駅」徒歩7分、桜木町駅下車徒歩20分、又はバス「パシフィコ横浜展示ホール」下車

- 内容：①花火大会メイン会場である臨港パークで観覧者に向けて、分別・ゴミ削減の呼びかけ・ナビゲートを行います。

②花火大会後のゴミを集め、分別します。(一部はリサイクルへ有効活用!)

\*分別ゴミの一部は特定非営利法人「自立・支援アリス」の協力を得て、地域作業所へと渡り、障がい者の自立支援へとつながります。

- 説明会：クリーン大作戦の参加者を対象にゴミの分別の勉強を兼ねた説明会を行います。

■日時：7月25日(水) 18:30~20:30

\*花火大会当日(1日)のナビゲート活動参加者は必須です。翌日参加者は自由参加です。

- 募集人数：① 50人 ② 350人

- 持ち物：タオル・帽子・飲み物・着替え

\*汚れてもよい服装でご参加下さい。清掃道具等はこちらで用意します。

- 申込方法

(1)~(6)の項目をご記入の上、ホームページでの申し込みフォーム、E-mail、TEL、FAX、のいずれかで、下記までご応募下さい。

(1) 行事名：花火大会クリーン大作戦、(2) 氏名、(3) 住所、(4) 電話番号、(5) 参加日 [①8月1日 分別活動、②8月2日 清掃活動、③両日 を選択]、(6) 説明会の参加 [①参加可、②参加不可]

\*多くの方の申込が予想されます。できる限りホームページ上の申込フォームよりご応募いただきますよう、ご協力をお願いします。

\*申込時に頂く個人情報、横浜市市民活動支援センターの本事業、また当センターからの連絡用以外には使用いたしません。

- 締切り 2007年7月23日(月) \*締切り後の申込はセンターまでご確認ください。

\*詳細はお申し込み後、ご案内いたします。

## 日の出町でシャッターペインティング

平成18年度・ヨコハマ市民まち普請事業に、NPO法人文化メリットを創る会(CAA)が「美しい環境・市民文化づくりの会」(略称：B-UPの会)のグループ名で提案した事業の第一弾として、「民間の施設のシャッターにユーモアのあるアートペイントを施しライトアップする」事業に参加するアーティストの作品を募集します。

- 公募期間：平成19年6月21日(木)~7月31日(火)

- 製作時期：平成19年9月(予定)

- 参加資格：市内在住または在勤で20歳以上の、自らシャッターペイントできる方。

- 問合せ：「B-UPの会」 中島・趙(CHO)

E-mail: info@happy21.jp

TEL: 050-5517-3583

- 詳細：

[http://blog.livedoor.jp/ccahp/archives/cat\\_10025963.html](http://blog.livedoor.jp/ccahp/archives/cat_10025963.html)



- まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

TEL: 045-671-2696 FAX: 045-663-8641

e-mail: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いいたします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

[http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back\\_num/index.html](http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html)